

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
 (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
 (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
 (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(8月～10月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 … 390人

グループ数 25グループ

(2022年 9月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ

秋分も過ぎ、夜が長くなって参りましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

天高く馬肥ゆる秋、会員の皆様にとっても充実した秋になることを願っております。

さて、事務局より下記のとおりお知らせがあります。

■びわ博フェスについて

本年度はびわ博フェス(10月22日～23日)を開催します。

琵琶湖博物館では、「みんなで学びあう博物館」を目指して、共に学びあえる機会を作りたいと思っています。今回のシンポジウムでは、はしかけグループから「近江 巡礼の歴史勉強会」さん、「海浜植物守りたい」さんに活動内容や成果についてご発表頂きます。びわ博フェスの日はぜひ、博物館にお越しください。(シンポジウムは当日枠もございますが、予約枠もございます。お越しいただける場合は予約をお勧めします。)

■びわ博フェスでのポスター発表やワークショップについて

グループで活動の皆さまには、ポスター発表やワークショップのご準備、誠にありがとうございます。当日、とても楽しみにしています。代表者の方へはびわ博フェスの準備に関わる情報を、随時メールにて送付させていただきます。何卒ご協力のほど宜しくお願い致します。

■企画展「チョウ展」について

本年度の企画展示では、滋賀県のチョウの分布の移り変わりやチョウの不思議な形態や生態について、多くの実物標本をもとに紹介しています。とても綺麗なチョウをたくさん見ることができます。入館をご予約のうえ、ぜひ、お越しください。

開催期間 ～11月20日(日)

■はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～12月)の掲載について

はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベントの情報を「活動報告と活動予定」のあとに掲載しています。はしかけ会員の皆様の活動内容を、より知って頂く機会になればと思っています。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

9月は以下の調査を予定していましたが、いずれも天候が悪く中止となりました。

- 9月3日(土) (荒天中止) 琵琶湖で夕涼み&釣り 場所: 守山市木浜湖岸
- 9月18日(日) (荒天中止) 第169回定例調査 場所: 能登川付近水路

【活動予定】

10月は安曇川での調査とびわ博フェス出展、11月は野洲川での調査を計画していますが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、内容を変更する可能性があります。詳細はメールにてお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

- 水口町郷土史会の発表資料作成のため、近江巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

【活動予定】

- 「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- 水口町郷土史会の支部発表会で「岩上地域の歴史と祭礼」をテーマに発表する。
9月27日(火) 13時30分～15時30分、甲賀市岩上地域市民センターにて
- 「びわ博フェス2022」に向けた取り組みを進める。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

- 2022年8月21日(日) 中止
博物館オープンラボにてスケッチの予定でしたが、コロナの感染者数が増加したため中止にしました。
- 2022年9月11日(日) 参加者 4名
びわ博フェスのためのポスター制作をしました。

【活動予定】

- 10月16日(日) 曾根沼でのスケッチ。
活動時間 10時30分～(15時)
持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。



■10月23日(日) 琵琶湖博物館

活動時間 10時30分～(15時)

びわ博フェスに参加します。

■11月20日(日) 坂本(大津市)でのスケッチ

持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。

俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

※10月16日と11月20日の活動について

雨天中止。

集合場所につきましては後日お知らせします。



<びわ博 de 俳句>

四季を通じて、琵琶湖博物館の周辺で俳句を詠んでいきたいと思えます。

博物館の敷地内にある田んぼや湖畔は句材の宝庫。

これからの季節は、刈田の風情や赤くなった烏瓜、湖畔では桜蓼や菱紅葉が見られます。

※写真は、花緑公園(野洲市)で見かけた板栗とキノコです。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■7月30日(水) 参加者:4名

びわ博フェスのワークショップの準備。今年は大麦を使ってストロースターを作ることにしました。大麦を10cm×12本と12cm×6本を使用し、角度をつけて円形に並べて星にします。最後に糸でとめて完成です。

作る際の台をどうするか悩んでいたのですが、紙コップで試行錯誤したところ、うまくいったので次回紙コップを準備することにしました。

■9月3日(土) 参加者:3名

びわ博フェスのワークショップの準備。前回、紙コップで台を作ることにしたので、人数分作成しました。大麦は10cm×12本と12cm×6本を使用するので、大麦を切って準備。12cm分は黄色や緑に染めてもらいました。

【活動予定】

■織姫の会

9月28日(水)、10月12日(水)、11月2日(水)、26日(土)

■びわ博フェス

10月23日(日)



ストロースター製作中



完成品

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2022年8月の活動

〇びわ博フェスに向けた準備と打合せ 参加者5名

日時: 8月21日(日)13:30~15:00

場所:琵琶湖博物館 セミナー室

びわ博フェスで行うポスターセッションやワークショップなどの時間や内容を把握して、どのような準備が必要かを話し合いました。参加される方は少なかったのですが、大体的内容が決まり良い話し合いをすることができました。「石を比べてみよう 石にかおを描いてみよう」のテーマで小学生以上の方を対象にワークショップをする予定ですが、皆さんに喜んでもらえるようなイベントになるといいなと思いました。

■2022年9月の活動

〇びわ博フェスのワークショップで使う用の石の採取

日時:9月13日(火)10:00~11:15

場所:野洲市 野洲川河川公園付近 参加者4名

色、形、大きさ、岩石の種類などを確かめながら楽しく採取できました。

【今後の活動予定】

9月24日(土)10:00~ 鹿跳橋周辺の調査

10月1日(土)か3日(月)10:00~ 犬上川にワークショップに使う用の石の採取

10月22日(土)23日(日) びわ博フェスに参加

11月26日(土) 湖南市石部の灰山野外調査

12月:屋内で地学勉強会 天文学地球科学からみた岩石

1月:屋内で地学勉強会 岩石持ち寄り情報交換会

2月:新年度活動計画についての会議 地学発表会



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

コロナ禍の中でいろいろと活動を休止しておりましたが、8月より再開しました。

■8月28日(日) 10:00~ 博物館実習室1 参加者6名

今年度の活動について、年間スケジュールや内容について話し合いをしました。昨年度行くことができなかった撮影会の場所などを中心に今年度も、県内各地の風景の撮影を行うと共に、大橋コレクションで撮影された場所での撮影も行います。

■9月24日(土) 10:00~ 博物館実習室2 参加者7名

10月1日(土)のイベントの準備のため、当日の内容検討に加えて下見として生活実験工房や樹冠トレイル周辺を歩き、撮影ポイントなどを確認しました。

【今後の活動予定】

■10月1日(土) 10:00~ セミナー室 博物館イベント「初心者のための生き物写真撮影講座」

■10月23日(土)・24日(日) びわ博フェス2022において、ポスター展示、記録係として館内の撮影

■11月26日(土) お出かけ撮影会 醒ヶ井・柏原 JR 醒ヶ井駅 10:10 集合

三度目の正直で駅前を中心とした中山道沿いを撮影します



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

7月4日～8月中は活動はありませんでした。

10月に行われるびわ博フェスについては、メールで打ち合わせをしながら準備を進めています。

【活動予定】

■びわ博フェスに向けての準備

日時: 9月25日(日) 13:00～16:00

場所: 琵琶湖博物館 実習室2



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■新型コロナウイルス感染対策のため、ディスカバリールームは土日祝日閉室しています。

7月12日から時間入替制でディスカバリー券(整理券)を配布した上での開室となっています。

■7月8月もお盆を除く平日のみの開室でしたが、夏休みということもあり、多くの方が連日展示室を利用していました。

■夏休み期間中、カイコの展示がおこなわれ、その成長過程を皆さん見ていました。

【活動予定】

■引き続き、土日祝日は閉室、平日は時間入替制・ディスカバリー券制での開室となっています。

現在のところ、イベントの開催予定はありません。

■びわ博フェスではポスター発表をする予定です。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・妹尾まで声をかけてください。

いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



【活動報告】

■8月20日(土) 木のスプーンづくり 参加者 15名

生活実験工房の中川(優)氏に講師をお願いし、木工に挑戦しました。

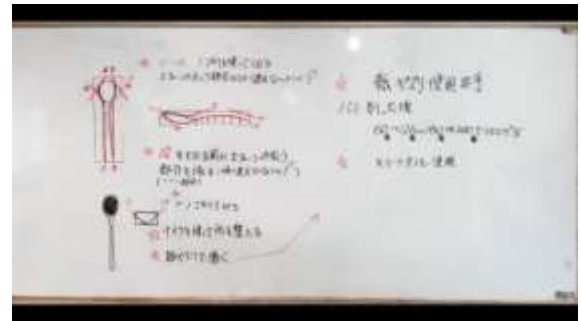
材料になる木材はもとより、型紙や作業台、ノコギリや彫刻刀、紙やすりなどの道具類に至るまで、すべて中川さんが準備して下さっており、初めて作る我々里山の会のメンバーもとてもスムーズに活動を行うことができました。

最初に中川さんより作業手順について説明があり、型紙に沿ってノコギリを使って粗くスプーンの形を切りだすところを実演してくださいました。それを見て一斉に作業に取りかかったのですが、万力で木材を机と作業台にしっかり止めるところからして云十年前に高等学校で学んだ技術の授業以来であり、中川さんに細かく指導をいただきながらの作業になりました。

スプーンの溝部分を掘る頃には、だんだんと刃物を使うコツがわかって来たように思いますが、柄の滑らかな曲線を小刀で整えるのはなかなか難しく、やすりを巻き付けた回転式のグラインダーのお世話になった人が大半だったように思います。

それでも、昼食を摂るのも半ば忘れて4時間ほどでスプーンを完成させることができました。

鉄の汁をつくってもこわれないぐらいの分厚いスプーンになってしまったような気もしますが、楽しい一日を過ごすことができました。(山川)



■9月10日(土) ハンモック干し、道具の手入れ 参加者 15名

毎年恒例の活動ですが大切なことです。ハンモックの布、ロープ、当て布を外の竹竿に干しました。天気が良くてよかったです。道具の手入れ、ノコギリ数十本は木の粉を歯ブラシで取り油を塗りました。ナタ4本はサビが出ていたので、サビ取りをした後サンダーで削り油を塗りました。

人数が揃っていたので午前中で出来上がり、あとはおたのしみ手作業を一つ。バルサのブーメランを作り、みんなで飛ばし(屋根にのせたり)、楽しかったです。(柳原)



【今後の活動予定】

10月8日(土) 里山体験教室 下見

10月16日(日) 里山体験教室 本番

10月23日(日) びわ博フェス ワークショップ



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年は7月から連日35℃を越える気温となり、外出を控えることが多く、体力も根気も無くなってしまった気がする。8月の活動は猛暑を予想して急遽中止としたが、集まって植物の話をする場が無くて何か物足りないとも感じた。また、ある方からは、植物も趣味だから楽しい、仕事だと草が大きくなってきても枝が茂ってきても恨めしくなると聞き、そうかもなあと納得した寂しい夏だった。

【活動報告】

8月7日(日) 猛暑のため休止

参加者 0名

9月4日(日) お出かけ観察 びわこ地球市民の森(守山市)へ 10:00~13:10

参加者 5名

あちこちで集中豪雨が発生し、晴れていてもすぐに雨が降る日が多く天候の心配をしていたが、快晴に恵まれた。すでに1週間ほど前に草刈りがされており、見られるものは少なかったが、植物の話をしながらゆっくり歩いた。

オオイヌタデ(赤花が多い、白花も見られた)、ツルマメ(花は紫色)、シロバナサクラタデは刈られずに残っていた。以前見られたコウホネは捜したが見つけられなかった。湿地生のタコノアシ(ちょうど花から実になる時期、先端が薄いオレンジになっているものもあった)、シロネ(花なし、2本のみ見つけた)は、ヨシやツルヨシに囲まれて見えづらくなり、数も減っていた。水分補給に休憩したベンチの所で、キタキチョウも地面で吸水していた。あっという間に6匹に増えて、懸命に吸水。帰りに見たら、12匹になっていた。その地面には何か特別なものがあるのか？

ハンノキ(来年の雄花・雌花、昨年と今年の球果、種子)、ミソハギ(花)、ヤマハギ(花)、ヒレタゴボウ(花、実、オオバナミズキンバイと見間違えるほど花弁が大きい、大群落となっている、一部駆除されている)、クヌギ(葉、実)、ナラガシワ(葉柄が0.5~1.5cm、葉の鋸歯が丸く先が針状、実で区別できる)、コナラ、カシワ(葉の鋸歯に丸みがあり先が針状にならない)を見ながら次へ。

途中、ゴマダラチョウが何匹もいて、ここでも撮影タイム。

所々に公園が作ったビンゴクイズの番号があり、問題と照らし合わせて進んだ。ゆっくり歩いていたおかげで、草陰に埋もれたカナビキソウを見つけ、花弁の数が3, 4, 5枚とう違いがあることも観察することができた。近くにカワラマツバ(花)、ハマビルガオ(葉のみ)があり、カナビキソウも植栽の可能性が大きい。

結局、お目当てにしていたカクレミノの花(下見からたった1週間ですべて結実)、カワラナデシコは見られず、そのまま引き返し解散した。

別記 9月10日(土) びわ湖博物館の職員入り口 横

他のはしかけ活動の後、沢山のアレチヌスビトハギの中に、黄色い花を見つけ数人で確認。花柄が10cm前後、その先に黄色い花(明らかにマメ科)、小さいが結実しているものがあり、ヤブツルアズキだと判明。図鑑の画像では、針金の先に吊されたように花がついていることはなかなか分からず、実物を見ることで他との違いが「一目瞭然」納得できた。

すぐ横のタブノキには、タンキリマメの薄黄色の花と、真っ赤な弾いた実があった。この実は熟すと皮の部分が割れて反転しその縁に2~3mmの丸い真っ黒な種子を付け、色といい形といい、見ているだけで楽しい気分させてくれる。

開花の覚え記録として、ここへ載せておくこととした。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 10月2日(日) 博物館実習室で「持ち寄り観察」 13:30~16:00 ごろ
- 11月6日(日) 博物館周辺、樹冠トレイルの観察 雨天の場合は実習室 13:30~16:00 ごろ
- 12月以降 未定 ※毎年2月はお休み

その他、新型コロナウイルスの広がり状況や雪によってもお休みにすることがあります

※この活動に興味のある方は、登録講座後、はしかけ担当メールへご連絡ください。
たくさんの方のご参加をお待ちしています。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第71回総会を、7月31日(日)15時から、オンラインで開催しました。諸般の事情で参加者が5人と少なかったですが、近況報告などで盛り上がりました。

新型コロナウイルス感染症の第7波は収束に向かってはいますが、未だ集まっての活動はできていません。しかし何人かの会員は、博物館に来館して、珪藻の写真撮影や同定作業を進めています。瀬田公園(大津市)の珪藻については、種の同定と序論のラフまでが完成しており、影の会長が論文執筆作業を引き継ぎましたが、そこから進んでいません。黒沢(クロゾオ)湿原(徳島県)の珪藻については、もう少しで同定が終わるところまで来ていますが、影の会長に最後の詰めをするだけの時間と気力がないため、1か月ほど止まっています。2003年に採集された安曇川および姉川・高時川の珪藻については、少しずつ研究を進めています。曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究や、琵琶湖の珪藻の定期観測、琵琶湖集水域に侵入した外来種珪藻の研究などの個人研究も進められています。

たんさいぼうの会の直接の活動ではありませんが、8月も終わりに近づいたある日、(元?)会員で、今年から東大の大学院に進学したK君がふらりと遊びに来ました。小学校の頃から家のビオトープに出現する微細藻類の研究を始め、推薦で入学した東大農学部でも微細藻類の研究を続け、今年3月には卒業研究で学部長賞まで獲得したという、まさにこの分野の若手のホープです。話しぶりもすっかり専門家らしくなり、自分たちの研究成果を分かりやすく説明してくれました。

【活動予定】

びわ博フェスで、「たんさいぼうの会」は「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」とともに、マイクロアクアリウムを乗っ取ります。現在、会長以下がその企てをしている最中です。

新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しないために、集まって行う活動は、ずるずると先延ばしになっています。しかし、感染力が強い新たな変異株が広がることさえなければ、この冬には集まって行う活動に抵抗がなくなるのではないかと期待しています。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたら、しばらく行っていなかった「たんさいぼうの旅」を復活したいと思います。福井県立年縞博物館の見学と、西坂さんのフィールドである千種川(兵庫県)の訪問を計画していますが、感染状況を見ながらの時期判断になります。また、冬の閑散期に、珪藻植生報告で顕微鏡写真を一定のスペース内に効率よく配置する「珪藻の詰め込み教育」を計画しています。

個人研究や面会によらない共同研究は、通常時と同じように進めていきます。



(13) たんぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

猛暑と豪雨に悩まされた夏もようやく終わり、日に日に秋の気配が感じられるようになってきました。稲刈りが済んだたんぼでは、エビ達が来春の孵化を夢見ながら長い眠りについているものと思われま。来年こそは、新型コロナウイルス感染に対する心配をすることなく、はしかけ活動が進められることを願わずにはいられません。

さて、5月に行われた本年度第1回のはしかけ登録講座で1組の親子が新たに入会されました。入会時期の関係で本年度の調査には参加いただけませんでしたが、十数年ぶりに活動を再開されたもう1名の方とともに、採集した標本の種を実体顕微鏡により確認する「同定会」からグループの活動に加わっていただいています。

【活動報告】

■7月24日、30日 10:00~16:00: 琵琶湖博物館実習室1で同定会を行いました。同定作業が初めての方もおられたので、事前に実体顕微鏡で撮影した画像を用いながら、種や雌雄を見分けるポイント、整理番号の付け方。ラベルの記載事項などを説明した後、各自が採集した標本の同定作業にとりかかっていただきました。



本年度は整理後の標本ビンの本数が400本程度に上ると予想されたため、採集日、採集場所、採集者名を印刷したラベルを可能性がある種すべてについてあらかじめ準備しておき、実際に同定された種のラベルのみに整理番号・枝番を記入して標本ビンに封入していただくという方法で、作業の効率化を図っています。

■8月5日 10:00～14:30:グループのメンバー全体による上記2日間の活動でも70本余りのサンプル瓶の同定が残ってしまったため、有志3名で残りの同定作業を完了させました。この日の作業は、主に京都府南部で採集したカブトエビ類の同定になりましたが、尾節背面後部に大きなトゲのある個体が多く、後縁端に後向きのみばらな小さいトゲがあるか否かが同定の鍵になりました。



■同定作業の結果を受けて、調査票の整理・集計、結果報告資料の作成を進めました。また10月に予定されている「びわ博フェス2022」で展示するポスターの作成も行いました。

【活動予定】

「びわ博フェス2022」において、田んぼの生きもの調査グループでは10月22日(日)15:00～15:30にポスターセッションのみを実施します。本年度調査の結果報告会については、新型コロナウイルス感染症の流行状況も見極めながら、改めてメールで日程調整・連絡を行う予定です。

(山川栄樹)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」の報告書はまだ届きません(2022年9月現在)・・・>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度、2年にわたって実施される広域調査ですが、2020年調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が制限されたので、2021年春まで調査が延長されました。滋賀県でも、2019年3月～2021年5月分の3年分のデータを事務局に提出しました。事務局に問い合わせたところ、まだ編集しているようで、報告書はまだ届いていません。入手したら、ご協力いただいた方々に連絡します。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

次回(2025年)の広域調査に関して、まだどうなるか事務局の判断が出ていません。何か方針が決まりましたら、この場で報告いたします。

(文責: 芦谷)

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。

また活動時間は、昨年度の午前・午後の2部制から、4月からは10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆8月は夏休みでお休みです。

◆9月の活動 9/21(水) 8組(幼児11名、大人10名)

全日に通過した台風の影響が心配されましたが、おかげさまで工房の森も畑も影響なく、秋を感じるちこあそを始めることができました。皆さん、子どもの様子に合わせて10時頃からお昼頃までと自由に来られ、田んぼ、畑、森と工房の自然をスタッフと楽しみました。

子ども達が興味深々な虫たちも見つかりました。イチジクの木にやってきたキボシカミキリ、クズを食草とするウラギンシジミ、まだ稲が残る田んぼには、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、イナゴ、オンブバッタ、アカハネオンブバッタに、ヌマガエルがぴよんぴよん跳ねていました。チョウセンカマキリも稲穂の間でそれら虫たちをねらっていました。耳をすますと、エンマコオロギが畑の端で鳴いていました。お家の方と一緒に、子ども達は捕虫網を持って、「トンボあっち!」「チョウチョいいた!」と走り回ります。バッタやカエルを見つかけたり、クスノキを食べているアオスジアゲハの幼虫の美しい緑色を見たり、捕まえたバッタをじっくり眺めたり、カマキリに驚いたり、自然が子どもの五感を刺激してくれます。「つかまえない」「なんだろう?」「きれいだな」「動いた」…まだまだ言葉にならない感覚もいっぱいの子も達が、虫たちから成長の学びを得ています。ハンノキの葉っぱを集団で食べているハバチの幼虫、クワノキの葉を丸坊主にするアメリカシロヒトリの幼虫の塊など、大人もビックリな生き物たちに出会って、子どもから大人まで、みんなが自然の不思議に感動しています。

ガチャコンポンプも変わらず大人気です。夏前には、バギーに乗って他の子ども達がガチャコンポンプを動かすのを見ていた子どもが、あっという間に歩き回り、しゃべり、ガチャコンポンプを動かそうとします。ポンプの取っ手をお母さんと持って、上下に動かして、水が出て来ると嬉しい様子です。スタッフは、子どもの成長に喜びながら、子どもが目で見、聞いていることを覚え、自らの手でやってみようとする中に、人が学び成長することを感じ取りました。

来月は、春に苗を植えたサツマイモが大きくなっていることを祈って、試し掘りをしてみようと思います。ジャンボラッカセイも葉っぱが大きくなってきました。収穫の秋になりますように。



工房裏の森で栗探し、やっと見つけた栗ですが、虫が入っていました… ハバチの幼虫、面白いポーズ ヌマガエル捕れた!

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
10月	10月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。
11月	11月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ11月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう!



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 8月、9月は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、観察会は行いませんでした。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:安達克紀

【活動報告】

■ 9月10日(金)「火を起こしてみよう！」

参加数：一般参加15名、びわたん5名、職員1名

火を起こしたい！と早くから並んだ親子連れ15名が参加してくれました。中には、某人気番組あ〇〇る君を超えようと気合いの入った方もいらっしゃいました(^^)

まずは、少し昔の富江家の暮らしについてお話をしました。カミクド、シモクド、火鉢など火が身近にあった生活。そして、火を起こす道具についてお話をしました。マッチや火打ち石、テレビで観たきりもみ式の仕草をしてくれる子もいました。

いよいよ、火起こしに挑戦です。まいぎり式火起こし器を親子に一台使い、協力して頑張りました。皆さん、煙が上がるまでは順調でしたが、火種を作り、麻の中に包み火を起こすまでが難しく汗をかきながら必死になっていました。終了間際に、一組の親子が成功し、皆で拍手☆

現代は、スイッチ ON/スマホタップで様々な事が出来てしまいます。体験を通して普段の生活を違う視点で見直すきっかけになってくれたら嬉しいです。



【活動報告】**■7月31日(日) 参加者: 5名**

ハクビシンの徐肉、テンの解剖、イタチの解剖、ヤモリの交連骨格標本の制作を行いました。

交連骨格標本というのは、全身の骨を組み立てたものの事なのですが、今回制作したヤモリのようなサイズのものの場合、一度バラバラにしてしまうと、もう一度組み上げるのが大変難しいです。そのため、肉を取る段階で完全にバラバラにはせず、関節がひっついたままになるように様子を見ながら、肉等を取り除いて、その後形を決めて乾燥させるという方法を取りました。自然な形になるようにポーズを取らせるのに苦労したり、一部分をバラバラにしてしまったので、その修正作業に苦労したりと、いろいろとうまくいかなかった箇所はありますが、何とか最後まで完成させる事が出来てよかったです。次に作る時は今回の反省をいかしてもっときれいな標本が作れるようになりたいと思います。

■8月13日(土) 参加者: 4名

ハクビシンの徐肉、イタチの解剖、カオオバンの骨のクリーニング、シカの頭骨のクリーニングを行いました。

このシカの頭はほぼ骨だったものを、この夏の間、水につけておいたものです。夏場は腐敗も早いので、2月ほどできれいな骨になってくれました。

脂も、きれいに落ちてくれた様子で、よい状態の標本になってくれてよかったです。

反対に同じ時期に、水に浸けたオオバンは手足の部分の骨の脂がきれいに流れてくれなかった様で、また後日様子を見て、脂を抜く作業を行わないといけないかなと思います。

オオバンの方がサイズも小さいので、脂もきれいに抜けてくれそうなものですが、そう単純な結果にはなりません。腐敗の状態や周りの温度などの結果なのか、もともとの標本の持っている脂の状態の違いなどによるものかなど、まだまだ勉強不足なので、原因を特定出来ませんが、さらに知識を身につけて、いつかはいつでもミスなくきれいな標本が作れるようになってみたいと思います。

■8月28日(日) 参加者: 2名

イタチ2体分の解剖を行いました。

■9月10日(土) 参加者: 2名

タヌキの骨のクリーニングを行いました。

【活動予定】**■10月**は8日(土)と23日(日)に活動を予定しております。

23日の活動は琵琶湖博物館で行われる琵琶博フェスに合わせ、標本制作の実演や交流活動を行いたいと思っています。

■11月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。

▲シカの頭骨です。



▲オオバンの骨格です。

わかりにくいかもしれませんが、黄色く半透明になっているところが脂がしみている箇所です



【活動報告】

■7月23日(水) 参加者:12名

活動内容:発酵の勉強会(大人のディスカバリールームのラボにて)

今回は、初めて琵琶湖博物館の大人のディスカバリールームのラボをお借りして、発酵の主役である微生物の世界を顕微鏡でみてみようという趣向で、私たちが普段食べている発酵食品にかかせない微生物の事について顕微鏡で見て勉強しました。

パンやお酒作りで活躍する酵母菌、ヨーグルトでおなじみの乳酸菌やビフィズス菌、味噌や麹甘酒などで活躍する麹菌、納豆菌や酢酸菌、EM菌など、メンバーが家で作っている自家製酵母やカスピ海ヨーグルト、柿酢などいろいろなものを持ち寄り、中に潜む微生物を顕微鏡で見てみました。発酵、それとも腐敗?酵母って、酵素って?など、発酵食品にかかわる言葉についても勉強して知識を深めました。

【参加者の感想】

- ・微生物の特徴や働きを知ると、何気なく食べている発酵食品が、実はとても素晴らしいものだと分かります。
- ・今回勉強したことを活かし、楽しく発酵食品を取り入れ、健康な毎日を過ごしたいと思いました。
- ・400倍もの顕微鏡の映像を見せて頂き、皆さんとお話ししながら、普段目に見えない小さな生き物の世界に思いをはせ、その奥深さに感じ入りました。
- ・柿酢の菌叢とても面白かったです。



■9月7日(水) 参加者:12名

活動内容:藍と茜を使った草木染め(生活実験工房にて)

今年度の始めにメンバーが藍の種を持ち帰り、それぞれ自宅で育てた葉っぱを今回の活動で使いました。

午前中は、藍の生葉染めまたは茜の染液で、綿のストールを染めました。午後からは綿のエコバックに藍の葉の叩き染めをしました。午後の叩き染めはかなりの騒音でしたが、みな良い作品ができました。持ち帰った生地は、藍の生葉染めは、他の植物より退色しやすいので、陰干しをする、またエコバックはしっかり乾かし、石鹼水に浸してから葉っぱの残りがくっついていたら取り、陰干しをします。お天気もよく染め日和の楽しい1日となりました。

最後にびわ博フェスのお試も行いました。

【参加者の感想】

- ・自分で育てた藍でストールを染められたなんて、感激しました。茜染めは大好きな赤に染まって嬉しく楽しい一日でした。
- ・草木染めには、色々な手順があり、染色の不思議さを感じました。手間をかけた分愛着も増し、大切にできます。
- ・藍の葉は、叩き染めることもできる染色に秀でた植物ですね。叩き染めは子供達にも楽しんでもらえそうです。
- ・古来の人たちは自然物から様々な色を染めだしていたのでしょうか?!官位12階や十二単…タイムトリップして昔の色を見たいです。
- ・植物でこんな素敵な色に染まることに驚き、他の植物でも染めてみたいになりました。
- ・藍の生葉染めは生地や下処理の方法で染まり具合が違うので、色々な発色が楽しめました。
- ・叩き染めは藍の葉の葉脈をきれいに出すのがなかなか難しかったです。



【活動予定】

■9月14日(水) 午前10:00~ 季節の植物でアロマウォーターを作ろう (生活実験工房)

■10月23日(日) 午前10:00～ びわ博フェス 植物から作る絵の具でポストカードを作ろう (実習室2)



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:八尋 克郎

【活動報告】

■7月24日(土)9時30分～12時30分 参加者:6名 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房・屋外展示
生活実験工房行事「昆虫採集」のサポート



■8月7日(日)9時30分～12時30分 参加者:9名 場所:琵琶湖博物館 実習室2・屋外展示
企画展関連イベント「昆虫の標本作り」サポート



また、「虫架け通信」を発行し昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。



なお、はしかけニューズレター166号にて「昆虫標本作成について学習と体験」の活動日を6月26日(土)としていましたが、6月11日(土)の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

【活動予定】

新型コロナウイルス等の影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしていました。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責:梶田)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6 名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■7月23日(土)、8月13日(土)及び8月27日(土)

新型コロナウイルス感染症の状況と暑さ対策のため中止した。

■9月10日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)6名 博物館職員)林

内容:

1. びわ博フェス 2022 関係

ポスター展示 10/22~23(必須)とワークショップ 10/23(森のガイドツアー)で申し込み済み。

①ポスターの作り替えについては現状のままとし森人のメールアドレスの変更部分には修正テープを添付することにする。

②森のガイドツアーは樹冠トレイルで「子供向けのクイズラリー」形式で実施することにした。

2. ガイドブック、見どころ情報やデータベースについて

「森人データベース」の作成について検討した。林さんから琵琶博のホームページで見ることができる「田んぼの生き物全種データベース」を教示いただいた。先ずどのような収載項目にするかをエクセル版で作成してみることにした。

■9月10日(土)13:00~15:00

森人の終了後、琵琶博の湖岸を散策した。目立ったのはヒレタゴボウ(アメリカミズキンバイ)、ホソバツルノゲイトウ、クズ(東側)、アレチウリ、ホシアサガオ、センニンソウ、モミジアオイであった。オオバナミズキンバイがいなくなりオオマルバノホロシやイヌゴマも見かけなかった。

主な植物の写真 (ホシアサガオのみ 2018/9/15、その他は当日撮影)



ヒレタゴボウ



ホソバツルノゲイト



クズ



ホシアサガオ



モミジアオイ



センニンソウ

【今後の予定】

■9月24日(土) 10:00~15時頃 内容:鳴谷溪谷、鏡山の植生観察 (詳細は別途連絡)

■10月8日(土) 10:00~12時頃 内容:びわ博フェスの準備

■10月23日(日)10:00~15時頃 内容:びわ博フェス 2022 参加

以上

【活動報告】

8~9月、琵琶湖博物館で活動した会員はいませんでした。

【活動予定】

琵琶湖梁山泊は活動の再開に向けて、新入会員のスカウトなどしつつ準備を進めていきましたが、新型コロナウイルス感染症第7波の襲来によって活動再開が遠のきました。しかし今年度の冬、新型コロナウイルス感染症が収束して新たな波が来なければ、久しぶりの顔合わせを兼ねて、総決起集会を開催したいと思います。卒業生も含め、是非ともご参加下さい。

中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方は上記代表アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



SALON DE 湖流
LAKESIDE MUSEUM

(23) サロン de 湖流

【活動報告・活動予定】

今後の活動方針について協議を進めようとしているところですが、メーリングリストの不調などもあり進んでいません。とりあえずびわ博フェスの準備をどうしようかと考えているところです。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告】

■7月7日(木) 9:30-12:00 雨 参加者 7名

1 活動先: 東近江市伊庭町、乙女浜町(旧能登川町)

2 調査目的:

旧能登川町地域の、大同川、愛知川、伊庭内湖の地形的関係性からの集落形成実態を把握するために、再度湖辺集落の現状調査を行った。

3 調査要旨:

(1) 旧能登川地域は、水車の郷としての水車の数々のランドマークが存在していた。



■ 駅前街路灯



■ マンホール蓋



■ 橋の欄干

(2) 伊庭地域

伊庭は「伊庭内湖の農村景観」として、平成30年10月15日(月)付けの官報告示(号外第226号)により、重要文化的景観に選定された地域である。琵琶湖の内湖である伊庭内湖に面し、集落の背後に聳える織山とそこから内湖に流れ込む川と集落内に張り巡らされた水路を巡る水から生み出された文化的景観である。再度の訪問であるが、現在のメイン道路沿いの水路は川幅も広く、カワトとしての利用、田舟からの荷下ろしの状況が目に浮かぶ風景が現存

している。東近江市の HP 記載の伊庭集落の歴史によれば、中世以降、近代まで水陸交通の結末点としての地位は変化していないとある。伊庭は本来、生業は農業であるが、各家保有の小型船舶が、内湖のエリ漁にも利用され物資の運搬の役目も持ち、麻布産業も盛んであり、県内では、大津、彦根、近江八幡などに次ぐ、有数の大集落であったと記されている。確かに現在でも水路が縦横無尽に張り巡らされており、主の交通手段は車となったが、昔の暮らしが、今に残る貴重な文化遺産エリアである。地域内の地縁組織、年齢組織、宗教組織などの社会的組織も現存し組織の中心である神社などの勧進吊り、注連縄の景観もしかりである。



■伊庭内湖より集落を望む



■伊庭集落内水路と田舟



■伊庭集落内水路景観

(3) 乙女浜地域

乙女浜は、大中の湖、小中の湖に隣接し、琵琶湖の水位変化により湖中に沈んだり、陸地となったりした地域である。砂州の形成で陸地となり内側は内湖となった。この乙女浜地域は砂地であり、コメの収穫には不向きで取れ高には苦労があった。この状況を江戸時代に彦根藩に嘆願した古文書も能登川博物館に保存されている。彦根藩の回答が「家の周りにお茶の木を植え、食事は米とお茶を混ぜた茶粥を食べて節約を図れとの命令がなされたそうだ。「茶粥の郷」といわれる由縁であり、現在も地域行事などの最後には茶粥を食す風習が残っている。乙女浜の現在は、内湖の埋め立てなどで、水路利用の必要がなくなり上水道の普及も重なり水路が暗渠化或いは埋め立てられている。昔は豊富な水を使った近江上布関連の工場も存在していたが、今は 1 社のみである。生業は農業であり生産は米以外に麦、大豆である。変わった風習として、「連中」という組織がある。地域で生まれた長男が三人ずつ仲間となり、行事に参加する風習がある。跡継ぎの囲い込みである。三人の付き合いは一生続くことになる。

(杉田氏の事前調査での情報収集記録より抜粋部含む)

■ 8月 17日(水) 9:30-12:00 曇り 参加者 7名

- 1 活動先: 東近江市 栗見新田、栗見出在家、建部日吉町
- 2 調査目的:

旧能登川町地域の用水として重要な役割を果たしている一級河川大同川の水源地から河口である琵琶湖までの実施調査を行なうとともに、一級河川である愛知川河口の葦地であった場所に江戸時代、彦根藩による新田開発が行なわれた栗見新田町、栗見出在家の現状調査を行った。

3 調査要旨:

(1) 大同川・大同川水門

水源は箕作山の東山麓であり、愛知川の伏流水が地上に現れる東近江市五個荘伊野部の井の下付近であり数本の水路を経て建部日吉町にある吉住池に流れ込む。吉住池自身も伏流水の湧出する場所である。巨大な沼池であり、流れ込んだ水も含め、池の出口からも大同川へと勢いよく水路を通じ流れ込んでいた。愛知川の左岸を流れるクリーク、人工河川的存在であり全長 19kmと短い。下流付近には、大中の湖干拓地形成時に、干拓地の水を汲み上げ琵琶湖に放流するために設置された水量調整機能を持つ大同川水門が構築されている。平成元年完成、常時航行可能な閘門、制水ゲート、調整ゲートを持つ水門である。水門から下流域(琵琶湖側)は人工的河川が形成されているように見える。



■吉住池全景



■大同川水門



■下流域からの大同川水門

(2) 栗見新田・栗見出在家

江戸時代、日本の耕作地は飛躍的に増加した。それは各藩が積極的に新田開発に注力したためであるが、彦根藩でも現在の栗見新田・栗見出在家でその形跡をみることができる。まっすぐ伸びる道路に向かって両側に家が規則正しく並んでおり、まさに近代の計画都市を思い起こす様である。きっと当時はまっすぐな水路が規則正しく縦割りに張り巡らされており計画的な新田集落であったことが伺える。文献によると栗見新田は寛文年間(1661-72年)、栗見出在家は文化3年(1806年)に完成とある。

同地域は、現在東近江市最北端の琵琶湖に面する 100 戸程度の農業主体の集落で「魚のゆりかご水田」事業にも取り組んでいる。



■集落内の水路①



■集落内の水路②



■現在の集落内の主要道路

* 参考資料: 東近江市史、湖東地区の伏流水と小川、東近江市HP「伊庭内湖の農村景観」

【活動予定】

■9月1日(木) 東近江市能登川地区

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■令和4年8月2日(火) 9時30分~11時30分 天候:晴れ 気温:33℃ 参加者:5名

観察状況

- * 酷暑。湖水は澄み対岸の山もきれいに見える。
- 暑いが、木陰を時折吹く風がホットさせてくれる作業日。
- ハマゴウは、種をつけ、ハマエンドウは水不足と暑さに耐えている感じ。
- ハマヒルガオが一輪咲いていた。
- 保護区近くのハマゴウにアメリカネナシカズラ (5m×3m)が広がっている。

活動内容

1. 保護区の土の含水率測定方法の検討
2. 保護区の除草(メヒシバ・チガヤ・エノコログサ・カヤツリグサ・センダンの若木等)
3. アメリカネナシカズラ駆除(1か所。多株。)(保護区西側にも有ったが手付かず)

海浜植物

- * ハマエンドウ: 全体的に暑さと水が少ないのか元気はないが、葉も伸ばしている。特に適当にチガヤや草に囲まれた所は茎も伸びて葉も元気が良い。今回も一部チガヤや草を残して草取りした。
- * ハマゴウ: 全体的に花が少なく種が出来ている。保護区近くの比較的日光があたらない所はつぼみも見られる。
- * ハマヒルガオ: 花の時期は過ぎ、種も地面に落ちていて茎は枯れ始めた。



今日の琵琶湖 水位-20cm



ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ



アメリカネナシカズラの駆除作業

■令和4年8月10日(水) 9時30分～11時30分 天候:晴れ 気温:33°C 参加者:6名

観察状況

* 今日も酷暑。暑い中今日は保護区の面積と水分量の計測のため砂を採取した。
休憩時の木陰の風が気持ちよい。

活動内容

1. 保護区的面積測量。
2. 土の水分量試験調査(9地点 1インチパイプで深さ20cm×4本)
3. アメリカネナシカズラ駆除 (2か所 5×3m・2×2m 多株)
今回は前回できなかった西側を中心に駆除する。かなり広がっており、花が咲き種も出てきている。
茎ごと巻き込み枯れさせているもある。ごみ袋、一杯になった。



今日の琵琶湖 水位-19cm

海浜植物

* ハマエンドウ: 前回の2日とあまり変化なし。
* ハマゴウ: 前回の2日とあまり変化なし。



ハマエンドウの育成状況



ハマゴウの繁茂状況



アメリカネナシカズラ駆除前



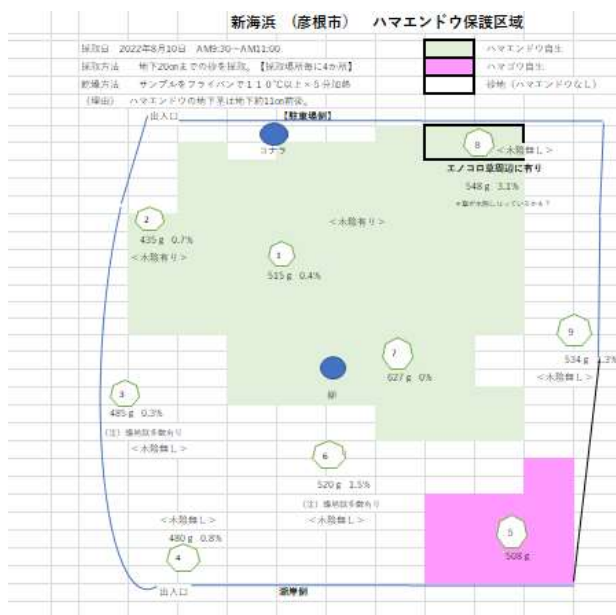
土壌サンプリング



ハマエンドウ地下茎の深さチェック



水分計での測定



含水率調査図

- ① 水分測定用サンプルを乾燥し水分量を測定。日陰、アリジゴクとの関係は読み取れず。
- ② NO. 5 は乾燥後の重量が 514g で元より多い(再測定も同じ)

* 次回30cmの深さまで採って水分量測定する。同時に深さ30cmで水分計を用いて測定する。

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～12月)

下記のイベントのお申し込みは、しがネット受付サービスから必要事項をお送りください。(「しがネット受付サービス」を利用できない方は、往復はがきに必要事項をお送りください。)

■「わくわく知恵さがし・楽しく学びあい・10月」

【内容】身近な自然にかかわる楽しい保全活動や水環境調査の方法や面白い水遊びのしかたなどを紹介するとともに、自然と人びとの暮らしの知恵を探索し、「つながりや学びあい」の場を楽しんでいただきます。

【日時】2022年10月16日(日)10時30分～12時00分

【申込締切】2022年10月4日(火)

■「ちっちゃな子どもの自然遊び・10月」

【内容】森や田んぼでの自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごす遊び場です。秋の虫を探しましょう。

【日時】2022年10月19日(水)10時00分～14時00分

【申込締切】2022年10月7日(金)

■「下物ビオトープの水だいたい抜く」

【内容】年に1度の下物ビオトープの水を抜く日にビオトープ内でいろいろな生き物を採集してみよう!

【日時】2022年11月5日(土)10時00分～12時00分

【申込期間】2022年8月25日(木)～2022年10月25日(火)

■「ちっちゃな子どもの自然遊び・11月」

【内容】森や田んぼでの自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごす遊び場です。博物館の森でどんぐりを探しましょう。

【日時】2022年11月16日(水)10時00分～14時00分

【申込期間】2022年9月16日(金)～2022年11月2日(水)(定員に達し次第受付終了)

■【田んぼ体験】生活実験工房 田んぼ体験 土の中の小さな生き物を探そう

【内容】生活実験工房の施設や水田を利用して、田んぼの生き物について学ぶことを目的とし、その一環として、土の中の小さな生き物たちの観察を体験して頂きます。

【日時】2022年11月20日(日)10時30分～12時30分

【受付締切】2022年11月8日(火)

■「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」

【内容】季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。

【日時】2022年11月30日(水)11時00分～12時00分

【申込方法】当日受付(受付時間 10:00～)(定員 5名)

■【わくわく探検隊】秋の色探しをしよう！」

【内容】「秋の色さがし」というテーマで、博物館のまわりで秋の葉っぱをさがします。紅葉した葉を実習室で紙に貼っていき、まるで絵画のような作品を作ります。最後の作品紹介は、とても楽しい時間です。

【日時】2022年12月10日(土)13時30分～15時00分

【申込方法】当日受付(受付時間 13時00分～)(定員 先着 15名)

■【田んぼ体験】生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり

【内容】生活実験工房の施設や水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。

【日時】2022年12月18日(日)10時30分～12時30分(受付時間 10時00分～ 生活実験工房で行います。)

【申込締切】2022年12月6日(火)

■「ちっちゃな子どもの自然遊び・12月」

【内容】森や田んぼでの自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごす遊び場です。稲わらで遊んでみましょう。

【日時】2022年12月21日(水)10時00分～14時00分

【申込期間】2022年10月21日(土)～2022年12月9日(金)(定員に達し次第受付終了)

4. 生活実験工房からのお知らせ

9月11日には生活実験工房の田んぼで稲刈り、はさ掛けを実施しました。

とても暑い中での作業となり、皆様、お疲れの様子でしたが、刈り終えたあ
とには達成感が得られたようで、大変喜んでもらえました。

「このお米はどなたが食べるのですか?」という鋭い質問もありましたが、
「誰かが食べています」とだけ答えておきました。

また、今回のニューズレターは中川優さんが編集してくださいました。あり
がとうございました。



稲刈り・はさ掛け 9/11

さて、今後の農作業イベントの予定は下記のとおりです。

(参加は予約制になりますので、ご注意ください。)

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～)

場所：生活実験工房

11月20日(日) 土の中の小さな生き物を探そう

12月18日(日) しめ縄づくり

2月5日(日) わら細工

担当:交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。